

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2023年12月25日(月)～31日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまに聞きましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどを箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

12月25日(月)

今日の聖書日課：ルカ 2：1～21

羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。 ルカ 2：20

羊飼いたちは帰って行きました。いつもの野原に。羊の野に。そこに家族がいる。今までと何も変わらないところに。あなたもそうです。昨日は特別なクリスマス礼拝、イブ礼拝。すばらしい体験をしました。神さまに、イエスさまに出会いました。しかし、あなたも帰ってきました。家に。そして今日からまた、職場に学校に。何も変わりません。転職するではありません。しかし、羊飼いたちは、あの帰り道に歌った歌を、賛美を、忘れませんでした。あの御使いたちの賛美を。その歌を歌いながら、メシアを遣わされた神をたたえながら働いたのです。

今日から始まるあなたに日常にも、あなたを片時も忘れない神さまの恵みがありますように。

12月26日(火)

今日の聖書日課：詩篇 30：1～12

あなたは私のために 嘆きを踊りに変えてくださいました。私の粗布を解き 喜びをまとわせてくださいました。 詩篇 30：11

ダビデ(表題)は、踊っています。しかし、最初は嘆きでした。御名を恐れつつも、自分の嘆きを主に注ぎました。ダビデが「叫び求めると あなたは私を癒やしてくださいました。」(2)。主は聞いてくださる。だからダビデは言います。「私は平安のうちに言った。『私は決して揺るがされない』と。」。主が御顔を隠しておられるかのように考えるダビデはおじ惑います(7)。しかし主は呼び求めるダビデ、あわれみを乞うダビデに聞いてくださる、答えてくださるのです。その結果の踊り、その結果の喜びなのです。

主は御顔を隠しておられません。あなたがそう思っている。あなたが祈り叫ぶ前に、神さまはあなたに向いておられるのです。

12月27日(水)

今日の聖書日課：詩篇 31：1～24

私は、うろたえて言いました。「私はあなたの目の前から断たれたのだ」と。しかし、私の願いの声をあなたは聞かれました。私があなを呼び求めたときに。 詩篇 31 : 22

ここの「あなた」とは誰か？主のことです。ダビデは、自分が主の目の前から断たれた、と一瞬考えました。苦しみの中で。自分の咎、罪のゆえに（10）。しかし、主はダビデの願いの声を聞かれました。だから彼は言うのです。「なんと大きいのでしょうか。あなたのいつくしみは。」（19）。主の赦しの中で「雄々しくあれ。心を強くせよ。すべて主を待ち望む者よ。」（24）。主を待ち望みましょう。

12月28日（木）

今日の聖書日課：詩篇 32 : 1~11

正しい者たち 主を喜び 楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ 喜びの声をあげよ。

詩篇 32 : 11

「正しい者」とはどういう人か？「その背きを赦され 罪をおおわれた人」（1）。これが正しい者、そして幸いな人なのです（1）。「心の直ぐな人」とは？「自分の罪をあなたに知らせ 自分の咎を隠さない」人（5）。神の前での正しさ、神の前に心が直ぐである、とはこういうことなのです。恐れることなく、主の御前に出て行きましょう。

12月29日（金）

今日の聖書日課：詩篇 33 : 1~22

見よ 主の目は主を恐れる者に注がれる。主の恵みを待ち望む者に。 詩篇 33 : 18

主の恵みを待ち望むとき、そのとき初めて主の目が注がれるのではありません。主の恵みを待ち望む、すなわち主を仰ぎ見るときに、主の目が自分に注がれていることに気づくのです。この詩の最後「主よ あなたの恵みが私たちの上にありますように。私たちがあなたを待ち望むときに。」（22）。これも同じ。主を待ち望むときに、初めて恵みが与えられるのではなく、そのときに恵みに気づくのです。

12月30日（土）

今日の聖書日課：詩篇 34 : 1~22

主を仰ぎ見ると 彼らは輝いた。彼らの顔は辱められることがない。 詩篇 34 : 5

この詩、表題を読むと、「ほんとかなあ」と思ってきます。I サムエル 21 章に書かれている出来事。サウルから逃げるダビデがアビメレク王のところに落ち延びようとするが、自分がイスラエルの将軍であることが悟られると、ダビデは「頭がおかしくなったようにふるまい」そこから追い出されたあのときのことで。恐怖と屈辱に包まれていました。しかしダビデは、あのとき自分は輝いていた、自分の顔が輝いていた、と言うのです。どうしてでしょう。主を見上げるダビデに主はご自身の御顔の光を輝かせられたからです。あの恐ろしく、また恥ずかしい出来事は、ダビデにとっては主の栄光を仰ぎ見るときだったのです。

主を仰ぎ見ると 彼らは輝いた。いつでも輝き続ける主の御顔を今日も、今も仰ぎましょう。

12月31日（日） 年末感謝礼拝

本日の礼拝説教箇所：ルカ 2 : 22~35 「まことの慰め」

一年最後の日。そして今年最後の礼拝。主の良くしてくださったことを数え、また、分かち合う一日でありますように。